

安曇野市SDGs未来都市計画（全体計画の概要）

提案全体のタイトル: 自然、文化、産業が調和する里 安曇野

提案者名: 長野県 安曇野市

全体計画の概要:

安曇野が有する豊かな自然や清冽な湧水、継承されてきた魅力的な地域文化を各産業に活かしていくことで、安曇野市の発展の根底にある自然、文化、産業の連携を一層推進していく。そして、誰一人取り残さない「共生」という新たな視点の下、持続可能で、誰もが幸せに暮らすことができるまちづくりを実現する。

1. 将来ビジョン

地域の実態

北アルプスの麓に広がる緑豊かな自然や清冽な湧水が魅力。基幹産業は製造業であり、わさびをはじめとする農業も盛んな地域。9年連続で社会動態がプラスであり、県内トップクラスの水準で増加。特に子育て世帯の転入が多い。

2030年のあるべき姿

自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット

- 【経済】観光業や商工業が分野を超えて連携するまち、稼げる農林業と担い手の育成が循環するまち
- 【社会】若者や子育て世帯に選ばれるまち、誰もが互いを認め合えるまち
- 【環境】多様な活動を通じて自然環境を守るまち、ゼロカーボンに取り組むまち



2. 自治体SDGsの推進に資する取組

自治体SDGsに資する取組

- 観光アプリを活用した観光誘客
- 安曇野産材の流通促進・高付加価値化
- 地域の特産品である天蚕の成長産業化
- シンガポールへの農産物輸出と誘客促進
- 「あづみの自然保育」を通じた地域の魅力理解
- ジェンダー平等、多文化共生の推進
- 北アルプス登山口駐車場の管理システム構築
- 水環境の保全・水循環の推進
- 屋根置き太陽光発電設備等の設置推進

情報発信

- 計画書やチラシ、刊行物など様々な媒体へのSDGsゴールアイコンの貼付
- 広報誌の特集の中で、身近な市民や事業者、団体等の活動を周知し、SDGsをジブンゴト化
- ふるさと納税等を通じて市の取組を周知
- ウェブサイト等による専用ページでの発信
- 国内に7ある国内姉妹・友好都市と連携し、SDGs推進の共同プロモーション
- 海外の友好都市であるクラムザッハ(オーストリア)とのSDGs推進の共同プロモーション

普及展開性

- 【経済】観光DXによる外国人観光客の受入体制、伝統産品を外部の目線で再構築する手法等は他自治体でも取組が可能である。
- 【社会】共生社会づくりを条例面から推進する手法は、他自治体での普及展開が可能である。
- 【環境】レッドデータブックの作成や生物多様性アドバイザーの活用は、市民の環境に対する理解を深める、生態系の破壊防止につながり、他地域でも同様の取組が可能である。

3. 推進体制

各種計画への反映

- 第2次安曇野市総合計画 後期基本計画
- 第2次安曇野市里山再生計画
- 第2次安曇野市観光振興ビジョン
- 第2次安曇野市環境基本計画
- 安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり計画

行政体内部の執行体制

- 「安曇野市SDGs推進本部」による全庁的な推進(本部長:市長)
- 庁内プロジェクト「価値創出プロジェクト」内での推進(総合計画の重点テーマと一体で推進)
- 「安曇野市SDGs推進方針」に基づく人材育成

ステークホルダーとの連携

- 【域内外】「さとぼろ。機構」、安曇野市海外プロモーション協議会、八十二銀行、信州大学、東京藝術大学、市内企業、団体、高等学校 等
- 【国内の自治体】国内友好都市(7自治体)
- 【海外の主体】クラムザッハ(友好都市)、シンガポール、フランス

自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

- 安曇野市SDGsに取り組む事業者の見える化を図り、市の魅力の1つとして市民や移住検討者等へ広く発信する。
- SDGs推進のため、商工会や工業会、観光協会、地方銀行との連携を深め、参画事業者の増加を図る。
- 本制度を官民連携のプラットフォームあらゆる活動から連携を生み、相乗効果を持った取組につなげていく。(統合的取組)